

第208回 河川文化を語る会

参加
無料

22世紀奈佐の浜プロジェクトの軌跡と展望 ～ごみのない豊かな伊勢湾をめざして～

講師 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
プロジェクト代表 小浦 嘉門 氏
副代表・四日市大学教授千葉 賢 氏

講師から一言

予告
チラシ作成中



【講師プロフィール】

小浦嘉門氏; 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会代表
答志島桃取地区の漁師であり、彼のSOSからプロ
ジェクトが始まった

千葉賢氏; プロジェクト委員会の副代表であり、四日市
大学環境情報学部の教授。海の動態、挙動が専門

日 時

2023年3月19日(日)

14:00～16:30 (会場受付開始13時30分)

会場開催

ウインクあいち (愛知県産業労働センター)
10F「1202会議室」

定員80名

※お申込み後の参加票の送付等はありません。直接会場
へお越しください。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはライブ配信
のみの開催となります。あらかじめご了承ください。




申込受付フォーム

ライブ配信

Zoom ウェビナー

定員100名

【主催】  公益社団法人 日本河川協会

【共催】 愛知・川の会

【後援】 国土交通省中部地方整備局

(予定) 環境省中部地方環境事務所

愛知県

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会

全国川ごみネットワーク







伊勢湾の海岸漂着ごみの大半が鳥羽市、そして答志島へと流れ着く。一番の問題はプラスチックごみであり重大な環境問題であるが、流木・灌木などの自然ごみも漁業などへの甚大な被害や、砂浜でのウミガメの上陸・産卵の大きな阻害となっている。一方でこうした流木などは、海岸の貴重な昆虫などにとってはなくてはならない存在である。伊勢湾での砂浜、自然海浜、干潟や藻場の減少が実は大きな問題であり、ウミガメvs昆虫のパートナー関係を生み出してしまっている。

むろん山間地での土砂崩壊や流木の流出はゼロには出来ないし、土砂・流木・栄養塩は伊勢湾も含めた流域圏にとって物質循環なのかもしれない。これから森林管理や土砂災害対策をどうしていったら良いのか、喪失した伊勢湾内海岸での自然空間の再生を進められないのか伊勢湾流域圏全体で考えていくべきであろう、と奈佐の浜プロジェクトからも訴えたい。